

2026 年 3 月期事業報告書 (2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

特定非営利活動法人 ヴォース・ニッポン

1. 概要

2026 年 3 月期の活動方針は、「活動の目的を明確にし、事業内容を見直し、持続的な安定した活動につながるよう、組織の基盤を整える」としました。

現行の装置による観測は、2026 年で 9 年目を迎えようとしております。2025 年 2 月 9 日、電子部メインユニットにトラブルが発生し、データが取得できない状態に。原因はシステムに採用されているスティック PC のダウンと判明。より堅牢な基盤化とする方向で調整し、開発者に作成を依頼。2025 年 7 月 7 日、製作に当たった技術者が乗船し、本船への設置が完了。水温のみとしながらも、計測再開となりました。

上記の影響もあり、今期の訪船回数が 5 回。スタッフ確保の影響を受け、配管別系統の水温のみとするコンパクトな体制。現場体制の維持は、今後も課題の一つ。

その一方、データ公開事業に関しては、新しいサービスを展開。2025 年 7 月 28 日、これまで「ひまわり 8」で取得されたすべてのデータを、海域ごとの年次変化グラフを作成・公開開始。更に、9 月 4 日には、最新データの公開フォーマットを抜本的に改良した新サービスをスタート。また更に、法人活動開始当初のオーストラリア船から取得された 2002 年から 2016 年まで太平洋データを集計し、まとめた総括的なレポートを、11 月 20 日に公開。データ公開事業に関しては、新しいサービス展開として実り多い年となりました。

今期に取り組んだ各事業の詳細は、「5. 事業計画の実施内容」をご覧ください。

2. 会員数

- ・正会員数：12 名（2026 年 3 月 31 日現在）
- ・支援会員数：0 名（2026 年 3 月 31 日現在）

3. 総会・理事会

〔総会〕

第 25 回 通常総会は、2025 年 5 月 9 日、当法人事務所で開催され、次の通り議決・承認されました。（正会員数 13 名、出席者 13 名、うち書面表決者 0 名、表決委任者 7 名）

- ・2025 年 3 月期の事業報告および決算の承認
- ・2026 年 3 月期の事業計画および予算の承認

（事業計画は、データ回収・公開事業、装置維持管理事業、地域における海洋観測活動の継続 3 事業、経常収入予算 382 万円、同支出 382 万円など）

〔理事会〕

第 33 回 理事会（日時：2025 年 5 月 9（金）／場所：当法人事務所）

- ・2025 年 3 月期の事業報告および決算の承認
- ・2026 年 3 月期の事業計画および予算の承認

4. 監査

2026 年 3 月期の収支計算書を含む全ての会計書類について、当法人監事による監査を受け、2026 年 4 月 21 日付けで、内容は正確でかつ適法である旨の監査報告書を受領しました。

5. 事業計画の実施内容

2026 年 3 月期は、次の 3 事業を実施しました。

- (1) データ回収・公開事業（継続事業）
- (2) 装置維持管理事業（継続事業）
- (3) 地域における海洋観測活動（継続検討事業）

(1) データ回収・公開事業

当初の目標：

東京-北海道間の沿岸海域を航行する篤志観測船「ひまわり 8」による水温データを、低遅延で公開する。

データ回収：

2025 年 2 月 9 日、データ取得に関するシステム系のトラブル発生。スティック PC のダウンによるものと判明。より堅牢な基盤化に変更する方向で調整。2025 年 7 月 7 日、技術者が乗船し、復旧完了。水温のみとしながらも、計測を再開しました。

データ公開：

「ひまわり 8」の観測装置による 2025 年 4 月～2026 年 3 月までの東京―北海道間沿岸海域の公開データ数は、2025 年 2 月からはじまったシステムトラブルの影響を受け、約 21.4 万件と、2 割近くの減少となりました。修復の完了した 7 月以降は、概ね安定しています。

広報活動：

今年も、2025 年 8 月 6 日に実施された東京湾環境一斉調査（主催：東京湾再生推進会議モニタリング分科会等）に NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社様と共同で参加。日本通運株式会社様の運航する RoRo 船「ひまわり 8」に搭載した観測装置で計測された、東京湾口から湾奥部の中央防波堤にいたる海域での往復の水温、157 件を提供することができました。

2025 年 10 月 17 日に開催された「第 25 回 東京湾シンポジウム」（主催：国土交通省）、今年もポスターセッション部門に参加しました。テーマは、「海水温の推移を追う」とし、これまで蓄積したデータの分析手法として、新しい取り組みをご報告致しました。

実績経費：

データ回収・公開事業の実績経費は、94.5 万円でした。

(2) 装置維持管理事業

当初の計画：

水温の安定したデータ取得。塩分計、pH 計に関する計画全般の整理。「ひまわり 8」の運航に関わる関係者との緊密な連携を維持しながら、搭載装置全体として、安定的に稼動するよう努める。

観測装置の稼働状況：

〔塩分計 SBE45〕

2025 年 7 月 7 日は、水温のみにて計測再開。塩分計は事務所に保管するため 11 月 11 日に撤去・回収。

〔pH センサー Durafet III〕

pH 計の表示機についても、事務所に安全保管する目的で、1 月 31 日に撤去・回収。

〔水温計 SBE38〕

水温計は配管が別系統で、やや離れて設置されるため、機器の安全確認やその周辺の清掃等、意識してチェックするよう心掛けました。

メンテナンスの訪船作業：

装置の定期メンテナンスは、およそ 3 ヶ月に 1 回、主に 3 名のスタッフによって実施。訪船回数 5 回。システム復旧後は、オーバーホールを意識した作業スケジュールにて、継続的に実施。メンテ作業の従事者数は延べ 6 名。（メーカーの技術者は含まれません。）

篤志観測船関係者へのお礼：

当法人は、観測装置を搭載いただいている NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社様、「ひまわり 8」の船主である日本通運株式会社様、運航管理の日本海運株式会社様、「ひまわり 8」の乗員の皆様をはじめ、ご関係の皆様から多大なご協力をいただき、海洋の科学データを取得・公開しております。日頃のご支援に対し、深く感謝申し上げます。

海洋のモニタリングは、長期に継続することに意義があります。今後も、皆様との信頼関係を維持・発展させ、目標達成に向けて進んでまいります。

実績経費：

装置維持管理事業の実績経費は 141.6 万円です。これには、電子部システムの基盤化・改修費が含まれています。

(3) 地域における海洋観測事業

当初の計画：

「沿岸域でも、長期に継続することで、より大きな空間スケールで起こっている変化を捉えることが可能ではないか」という当初の目的意識を継承しつつ、太平洋に面した場所に活動拠点を持つ地の利を活かし、新たな活動テーマを、引き続き模索する。

地域における海洋観測事業：

事業内容を見直す年となり、本テーマは今期も持越し。一方、イベントを通じ、環境系 NPO と繋がる機会もあり、活動の可能性を広げる機運も少しずつ生まれています。

実績経費：

地域における海洋観測事業の実績経費は 0 万円です。

6. 事業会計の概要

2026 年 3 月期事業会計

2026 年 3 月期の事業会計の概要は以下のとおりです。当法人は非営利事業のみを行い、事業会計は、経常部門と特定資産部門とに分離して管理されています。

〔経常部門〕

・ 事業収入

受け入れ寄付金	315.0 万円
特定資産運用益収入	50.0 万円

・ 事業支出

事業費（3 事業計）	236.1 万円
管理費	123.0 万円

〔特定資産部門〕

・ 期初特定資産総額	5,465 万円
・ 期中特定資産増加額	87.6 万円
・ 期末特定資産総額	5,553 万円

なお、経常部門の 26 年 3 月期末の正味財産合計額は-74.9 万円で、前期末より 6.1 万円増加しました。

8. 運営上の課題

当法人は、「海洋の基礎データを誰もが自由に利用できるよう提供し、海洋環境の変動を解明することに貢献する」との理念を掲げ活動を続けてまいりました。現在は、持続可能な社会の実現に貢献するという目標に向かって、日本通運株式会社様の RoRo 船により東京-北海道間の沿岸海域で取得した精度の高いデータをご提供することに努力しております。

発足から 25 年目を迎え、四半世紀が経つ中で、事業そのものの見直し、現場スタッフの確保等、様々な課題に直面しています。一方、情報提供の分野に於いては展開がなされ、安定感が生まれています。基礎を固め、活動の基盤を整えながら、一步一步、進んで参ります。

今後も、皆様の更なるご支援をいただけましたら幸いです。

以 上